

## 百姓の倅

学部 33 回 三村 邦久

「収穫を問うなかれ、ただ耕耘（こううん）を問え」。

この言葉は私の座右の銘で、「安直に実りを求めず、田を耕し種を撒くこと一心に力を注げ」という意味です。山田錦農家の息子として生まれた私は、幼少期から堆肥を作るための牛の世話、泥田での田植え、汗まみれになりながら肥料や農薬の散布、稲刈り・脱穀に精米、等級検査・出荷と 30 歳まで父を手伝ってきました。そんな経験から、冬に土地を肥やし、春に種を撒いて、秋に収穫する。無理に急がず四季の変化を感じながら、自然の秩序の中で生活するのは当たり前のことだと思っています。

一方、都市生活では自然というものが殆どなく、人口のもので埋め尽くされています。鉄筋やコンクリートで作った建物。工場で作られた加工食品。野菜までもが日光を浴びない LED で育てられるなど、科学技術が発展し人間の力を過信し、自然の力が軽視される時代になりました。そんな反動からか都市に住む人は田舎暮らしに憧れ、地方に棚田を借りて、米作りを楽しむ人もいます。

しかし、米作りという仕事は、肥料や農薬に農機具の支払を考えれば、忍耐ばかりで実入りも悪く、決して良い商売とは言えません。そして、日照り、長雨、いもち病に台風襲来と自然の前で人間は無力です。そんなことで、亡き父の田舎に残って農業を継いで欲しいという期待には応えられず、実家を出て町での生活を選択しました。

あれから歳月が過ぎ、せめてもの罪滅ぼしとして、私を育ててくれた故郷のために何かできないかと考え、2013 年より実家の田圃で穫れた山田錦でオリジナルのお酒を作っています。米を作って終わりではなく、酒蔵の杜氏さんからお酒を飲む人までの線を作り、米作りを担ってくれる人にやり甲斐と誇りを持って貰えないかと考えています。出来ればミシュランの三つ星レストランなどにもご協力頂き、農家、杜氏、シェフ、お酒を楽しむ人の笑顔の輪を作りたいと思っています。

この酒の名前は亡き父の名前を取って「清」としました。アルコールはじめ食品には添加物がたくさん盛りが当たり前の時代に、純粹に山田錦 100%のピュアなお酒を作ってみました。大吟醸といえば甘ったるいイメージがありますが、この「清」は辛口でさっぱりとした口当たりで本当の日本酒の良さを味わって頂けるとおもいます。

